

伊達 149

発行日 令和6年12月23日

発行者 伊達地区小学校長会
会長 五十嵐 修

編集 同 広報部

《 巻 頭 言 》



学び続ける

伊達地区小学校長会副会長

渡 邊 か お り

(伊達市立梁川小学校長)

「少しずつですが、年々学校づくりの難しさと関心の高まりを感じています。」教職員研修講座の感想にあったご意見です。自分はどうだろうか。新型コロナウイルス感染症による行動制限の頃から、自分の心を自分でコントロールできず自分自身をも傷付けてしまう児童が増え、学校に求められることも難しくなったと思います。どうしてだろう。私の教員経験で得た知識や理解だけでは、把握しきれない児童がいるのではないかな。私自身も変わらなければいけない時なのではないかな。そんな私が思い出したのは、教頭時代にお世話になった方の言葉です。「自分は退職後に英語を学んで覚えた。必要だと思ったら、何歳からでも学べる。今からでも遅くはない…。」目の前にいる児童を理解する勉強を参考図書から始めよう。わたしの目標となりました。ここにその一部を紹介します。

○愛着障害の克服

「愛着アプローチ」で、人は変わる

岡田尊司 著 光文社新書

生きづらさを持つ子どもの安全基地になることの必要性、愛着を安定化させることで改善へと向かう実践を学びました。

○学力は「ごめんなさい」にあらわれる

岸 圭介 著 ちくまプリマー新書

「何度言えばわかるの!」注意してもことばが届かない子どもは、ことばの理解が足りない。子どものことばの捉え方やことばの伝え方を考えさせられました。

○魔法のほめ方P T (ペアレントトレーニング)

横山 浩之 著 小学館

叱らずに子どもを変えるには…。発達障がいなどの子どもだけでなく、全ての子どもたちにとっても効果的な対応方法を理解しました。

○ むずかしい毎日に、

むづかしい話をしよう。

平熱 著 東洋館出版社

特別支援学校に勤める先生のつぶやき。そのつぶやきに、先生たちの本音とともに一緒にあがいている自分自身に気付かされました。

10月13日に文部科学省から発表された「児童生徒の問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題に関する調査結果(令和5年度)」でも、いじめや暴力行為については3年連続の増加で過去最高、長期欠席も小学校での増加が著しいとありました。この結果に、私はやはりと思うと同時に、今、食い止めなければという思いを強くします。

学校課題解決の糸口を様々な参考図書や多くの人との対話から学び、学校経営において具体化し実行していきたいと考えます。悩むことは学ぶべきことと捉えると、学ぶべきことは年々増えるかもしれませんが、私自身がまだ学習者であり、図書や人との出会いに多くのヒントや解決策が隠されていることを楽しむ教員でありたいと思います。まだ、大丈夫。これからも自分自身の成長のために学び続ける自分でありたいと思っています。

《 特 別 寄 稿 》



福島県小学校教育研究協議会 体育科研究部会伊達大会

県小教研伊達地区会体育科研究部長 青 柳 俊 宏
(桑折町立伊達崎小学校長)

10月11日、伊達市霊山中央交流館と伊達市立掛田小学校を会場として、福島県小学校教育研究協議会体育科研究部会伊達大会が開催されました。今年度は、第Ⅷ期3年目のまとめの発表大会となり、県内各地から72名の先生方が集まりました。研究主題「体育や保健の見方・考え方を働かせる学びを通して、心と体の高まりを実感できる子どもの育成」のもと、活発な協議が行われ、各地区の特色ある実践が発表されました。

研究協議では、4つのグループに分かれて、各地区の取組が報告されました。体育の授業において、子どもたちが運動の楽しさや大切さを深く理解し、自ら考え、運動に取り組めるようするための指導法についてがテーマでした。特に、単に体を動かすだけでなく、「なぜそうするのか?」「どうすればもっと上手くできるのか?」と自ら考えさせる指導法について活発な議論が行われました。



代表発表とグループ協議



運動のコツを書き込む児童

ICTの有効な活用方法についても話題になったところでした。福島県教育庁健康教育課指導主事 田村高弘 様にご指導いただき、タブレットを活用することのメリットや必要性を改めて理解することができました。目的に応じてデジタル教材と従来の指導法を使い分けることで、より効果的な学習が可能になります。先生からは、「誰が、いつ、どこで、どのように、何のためにタブレットを使うのか」を明確にすることの重要性をご指導いただきました。

また、「できる」という実感を与える指導や、自己管理能力を育むための自分手帳の活用など、具体的な指導方法も教えていただきました。

公開授業では、伊達市立掛田小学校の大森雄斗

教諭による「体づくり運動」の授業が行われました。本授業では、体の柔軟性を高める運動や巧みな動きを習得するための運動を重点的に行い、子どもの体力の向上を図る実践的な指導が展開されました。



児童を認め称賛する教師

ここでは、子どもたちが課題解決に向けて主体的に取り組む姿が印象的でした。同じ課題をもつ子ども同士で励まし合ったり、協力し合ったりしながら活動できるようにしたことで、子どもたちは互いに協力しながら、課題に取り組むことができていました。

参加者からは、「子どもたちの意欲的な姿に感動した」「自分の授業にも活かしたい」といった声が聞かれました。

午後の講演では「夢を追いかけて続けた車いすバスケットボール人生」と題して、車いすバスケットボール元日本代表キャプテン 豊島 英（あきら）様をお招きして、講演会を行いました。



車いすバスケットボール元日本代表キャプテン 豊島英様の講演の様子

講演で特に印象的だったのは、「高みをめざし成長していかなければならない」という言葉でした。選手は、単に競技の技術を磨くだけでなく、常に新たな目標を設定し、それを達成するために努力を惜しまない姿を見せることが大切であると話されていました。

「夢をもって、自分のためから誰かのために努力し、感謝を忘れない」という言葉も心に響きました。単に自分のためにスポーツに取り組んでいるのではなく、「障がいを持つ人々へのロールモデルとなり、社会に貢献したい」という、豊島様の強い使命感を感じました。

伊達地区会員の皆様のご協力のもと、県大会は計画的に準備・運営され、大盛況のうちに幕を閉じました。多忙の中、体育部員を研究会に参加させてくださった各学校に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

《 特 別 寄 稿 》

第76回全国小学校長会研究協議会徳島大会を振り返って

伊達市立上保原小学校長 五十嵐 修

徳島市長の阿波踊りで開会した標記大会。徳島県においては、グローバルとローカルを兼ね備えた「グローバル人財＝新たな視点をもとに自分の将来をしっかりと見据え持続可能で豊かな未来社会を切り開いていく担い手」の育成を目指してきたとのこと。この徳島ならではの未来教育は、本県にも大いに当てはまると感じながら参加した。

1日目は、文科省講話と、約2,200人の校長が13の分科会に分かれての研究協議が行われた。第2分科会では「組織・運営」について、長崎県と愛媛県の2校の研究発表をもとに、熱心な協議が行われた。その中でも、次の点が印象に残った。

- 教育相談事案に対応するため「教育相談サポート委員会」を立ち上げている。
- 学校経営ビジョンを広く周知するためイラストや図を用いて分かりやすく作成している。

また、東京、九州、近畿、東海等の各地方の学校との情報交換では、次のような印象を受けた。

- 伊達地区は他地区に比べてかなり小規模である。
- 各地方でも各地区が一枚岩となって取り組んでいる。

「伊達はひとつ」を合い言葉としている本地区としては、各校間のつながりをより一層深め、研究を深めながら、未来を生きる子どもたちのために取り組んでいかなければならないと感じた。

2日目は、地元徳島の神山まるごと高等専門学校事務局長・松坂孝紀氏を迎え「神山まるごと高専の挑戦～徳島発、新しい教育のカタチ～」と題して講演が行われた。開校コンセプト「テクノロジー×デザイン×起業家精神」にまつわる話、開校までの数々の苦難、高専での学びの様子などについて、映像を交えて話された。変化の激しい社会を生きていくために必要な、まさに「人財」育成を目指した学校づくりであると感じた。

運営、対応等に際しては、開催県の校長先生方の人情を感じた。本県と一文字違いの徳島大会。情報交換（昼夜）も含め大変有意義なものとなった。

第64回東北連合小学校長会研究協議会青森大会を振り返って

第9分科会【自立と社会性】

桑折町立睦合小学校長 齋 藤 貴 恵

第9分科会【自立と社会性】では、研究課題「自立と社会参加を図る教育の推進」を受け、福島県の北沢又小学校及び青森県の甲洋小学校の2つの発表に続き、2つの視点を設けグループ協議を行いました。

視点1「自立と社会参加を図る特別支援教育の推進」では、特別支援教育推進に関する保護者の理解・専門性を高めるスキルアップの必要性・関係機関との連携などが話題となりました。校長の役割として、個別の支援計画を作成し生かすこと、専門性を高める研修を推進すること（校長のスキルアップも大切）、全員で関わって人材を育成していくこと、安心して学べる環境づくりに取り組むことなどが確認されました。

視点2「未来への夢や志を育むキャリア教育の推進」では、キャリアパスポートの活用事例（保護者との教育相談時に活用した事例等）が紹介されました。また、キャリア教育全体計画の整備や

キャリアカウンセリングへの意識向上などが、今後の課題として挙げられました。また、地域学習（ふるさと学習）と関連づけたキャリア教育の取組が紹介されました。特に伝統芸能に関わるもの、震災前に行っていたものの復活など、地域との結びつきを大切にしたいふるさと学習をキャリア教育の中心に据えている事例の紹介がありました。更には、それぞれの地域独自のキャリアパスポートの活用の例なども紹介されました。校長の役割として、子どもの自主性を生かして学習をキャリア教育の視点で見直していくこと、日常に盛り込まれたキャリアの視点を確認し育てていくことなどの重要性が確認されました。

今回のグループでの協議を通して、東北各県の特色ある取組を知ることができ、自立と社会性を育む学校経営の方向性を感じ取ることができました。そして校長自身のスキルアップにつながるとても有意義な研修になりました。

《 先 輩 よ り 》

学び直し

前伊達市立伊達小学校長 熊 坂 吉 徳

今年のノーベル平和賞の受賞に関連するニュースで、ある80代の日本人女性が英語で自分の被爆の体験と平和の大切さを大勢の外国人の前で英語でスピーチしている映像を見ました。格調高い英語と品格のある話し方に思わずテレビ画面に入りました。さらに驚いたことには、その女性は英語の学習を70代の後半から始めたとのことでした。

とても感銘を受け、自分も何か勉強したいという気持ちを強くしました。手始めに、以前から読もうと思いつつも余裕や時間がなく本棚の奥に埃をかぶっていた英語関連の書籍を引っ張り出しました。

埃を払って眺めていると、英語に興味を持って勉強し始めた中学生の頃の気持ちを思い出しました。子どもの頃に興味を持ち、調べたり学んだりしたことは、いつまでも続いていくものだとしみじみ実感しています。

時間にゆとりが持てるようになった今、少しでもニュースの女性に学び、何かしらの勉強をし、残りの人生を豊かにしたいと願うと共に、子どもたちの興味を引き出し、将来の力とすることができるような授業をしたいとがんばっています。

町役場3階にて

前桑折町立釧芳小学校長 遠 藤 和 宏

桑折町では、土曜日に子どもたちに豊かな教育環境を提供する取組の一つとして、「桑折学習塾」を開催しています（いきなり宣伝からスタート）。小学生には年2回、中学生には年16回勉強を教えています。5月下旬、現場を離れて約2か月後、久しぶりに子どもたちの前に立った時、何とも言えない高揚感に包まれました。37年間、子どもたちに囲まれてきた私にとって、「やっぱりこれだよなあ。」という、まるで真夏の昼下がり、キンキンに冷えたビールを飲み干す感覚でした（私はほぼ下戸ですが）。私た

ち教師は（引退した現在でも）、これがなくてはやっていられません。普段、デスクワークが中心で、時々会議や授業研究会に出席する単調な毎日の中で、明日へのエネルギーを得られる貴重な時間となっています。

校長先生方には、いろいろと大変なこともあると思います。「事件は現場で起こっているんだ。」（by 青島）ですからね。町役場3階からいつも応援しております。校長職を楽しみながら、何かあればお気軽に声をかけてください。

「校長職を極める」とは

前桑折町立伊達崎小学校長 佐 藤 浩 哉

伊達地区小学校長会の皆様には昨年度までの2年間、大変お世話になりました。

学校の最高責任者として判断する重みは校長を辞するときまで変わることがありません。実態を捉え、経過を調べ、資料を収集し、それでも悩むとき、地区の校長先生方に何度も助けていただきました。ありがとうございました。

校長職を極めるために教職員理解、児童理解、地域理解に努めるのですが、私は最後までその一面しか理解できませんでした。多くの言葉を交わ

し、地域の行事などに積極的に参加してもなお全てを理解することはできません。特に教職員については、もっと多角的な視点が必要だったと反省するばかりです。

校長職を極めることは大変難しいことですが、児童生徒にとってよりよい教育活動を常に追求め、教育に対する^{こころ}滾るような情熱を失うことなく学校経営にあたっていたいただければ願うばかりです。校長先生方が、健康で、力を十分に発揮され、ご活躍されることを期待しています。

編集後記

酷暑の後、長い残暑が続いた2学期でしたが、季節は移り、冷たい風に日本の四季を感じています。子どもたちに豊かな感性を育むため、肌で季節を感じ、五感を使って学ぶ体験をたくさんさせたいと思っています。大人も季節の移り変わりを楽しみながら職務に従事できるよう、心に余裕をもつことを心がけていきたいものです。「広報伊達149号」を発行するにあたり、ご多用の中、ご寄稿いただきました諸先輩方、校長先生方に心より感謝申し上げます。「伊達はひとつ」この言葉を胸に、今後も伊達地区校長会の絆を深めていきましょう。